

8. まとめ

遊漁船衝突事故の発生状況には、次のような特徴がありました。

- 遊漁船の関係する事故等のうち、**約 6 割を他船との衝突事故が占め、近年増加傾向**
- 遊漁船側からみた衝突の相手船は、**プレジャーボート・漁船で約 8 割**

また、航行状態・発生要因に関する分類を行ったところ、次のような特徴がありました。

- 遊漁船の衝突事故を遊漁船と相手船の航行状態で整理すると、**航行中の遊漁船が、漂流又は錨泊中の船舶と衝突する事故が約 6 割**
- **航行中の遊漁船のうち、航行の状況に応じた見張りが行われな**いなど、**相手船に気付か**ないまま衝突したものが**約 8 割**
- 航行中、相手船に気付いていながら衝突した遊漁船は、大半が**魚群探知機を操作したりして相手船の継続的な見張りを**行っていない**かった**
- 漂流又は錨泊中の遊漁船は、**釣り客への対応等をしていて相手船に気付かなか**ったり、相手船に**気付いていながらも、相手船が避けると思**ったなどと判断していた

遊漁船衝突事故の事故事例から、事故防止に向け、主に次の点が重要であることが分かりました。

- 動揺して船首方の視界が妨げられる場合、**前路に航行の支障となる船舶がないもの**と思込まず、**減速するなどして視界を確保**すること
- 航行中、魚群探索等に意識を向け過ぎず、**常時、周囲の見張りを適切**に行うこと
- 漂流中であっても**常時適切な見張り**を行い、接近する船舶を認めるときには、**余裕のある時期に注意喚起**を行い、**主機を始動して移動**するなどの措置を採ること
- 見張り強化のために**レーダー搭載**を検討し、搭載が難しい場合は、**簡易AISやAISアプリ**を使用して、他船の動向の把握や衝突防止を図ることが望ましい

事故防止分析官のひとこと

遊漁船を操船する皆さまにおかれては、釣り客の安全に配慮され日々運航されていることと思います。

お客様の相手や、素晴らしい釣果に向けた魚群探索も大切ですが、航行中、錨泊・漂流中を問わず周囲の見張りをしっかりと行い、無事に帰港することが最も重要です。

なお、ダイジェストの前号（第 37 号「小型船舶の衝突事故防止に向けて—AIS を活用しましょう—」）において、簡易 AIS や AIS アプリについてご紹介していますので、併せて参照し、活用いただけると幸いです。（URL https://www.mlit.go.jp/jtsb/bunseki-kankoubutu/jtsbdigests/jtsbdigests_No37.html）

〒160-0004
東京都新宿区四谷 1 丁目 6 番 1 号
四谷タワー 15F
国土交通省運輸安全委員会事務局
担当：参事官付 事故防止分析官

TEL 03-5367-5030
URL <https://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>
e-mail hqt-jtsb_bunseki@gxb.mlit.go.jp

「運輸安全委員会ダイジェスト」に関するご意見や、出前講座のご依頼をお待ちしております。

